

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	有限会社深町コーポレーション		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9-14		
自己評価作成日	平成26年6月30日	開設年月日	平成15年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の生活リズムを尊重し、利用者がゆったりと、安心して生活できる環境作りを心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成26年7月22日	評価結果決定日	平成26年8月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の周りや中庭には豊富に樹木が植栽され街の中に居ながら森の中に立つもう一つの我が家を思わせる佇まいとなっている。敷地内には小規模多機能事業所もあり、渡り廊下で繋がっている。グループホームは開設後10年を経過し、利用者も加齢とともに身体や認知機能が低下し、介護度が高く、医療依存度の高い利用者が増え、地域活動や、行事への参加者も限られてきている。職員はこのような状況に対応すべく、ターミナルや看取りの学習に取り組み利用者の要望に応えられるよう日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に入りやすい場所に理念を掲示している。また、ユニット会議で理念に基いたケアが出来ているかを確認している。	理念の見直しを行い、全職員からの提案を基に「人と人 気持ちつながるはなみずき みんなの笑顔 咲かせます」を作り上げた。各ユニット毎の理念と共に、常に見やすい場所に掲示し、実践に繋げるため会議などで確認し合っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護相談員や民生委員の方からの助言の元、挨拶回りを通じ事業所の説明を行い、以前より日常的に交流する機会が増えている。	散歩時の挨拶、ボランティアの受け入れ、夏祭りへの招待など、地域と関わってきている。更に地域の一員としての交流を強化するため、目標達成計画に「地域との協力体制の強化」を掲げ取り組んできた。地域のゴミ拾い行事等についての情報提供があり、今後取り組む計画である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方だけでなく、利用者の知人や、通りがかった方からの相談を受けたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た要望や助言は、すぐに現場に報告し、改善できるようミーティング時に話し合っている。	利用者、家族、民生委員、地区代表、包括職員が参加し年6回、小規模多機能事業所と合同で開催している。会議では事業報告を行い、参加者からは、職員の名前を覚えられないなど身近な質問が出され、早速事業所だよりに掲載するなど、出された意見や要望に対しては、話し合いを行い改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は、電話や直接相談に行くなどして対応している。	制度上や手続きのこと等で解らない時は電話や直接出向いての相談をしたり、情報提供をしている。また介護相談員が月1回訪問し、利用者や職員と話し合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全員の職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	禁止の対象となる行為については、全職員が理解し、一切行っていない。玄関の施錠も基本的にしない。が、日々の利用者の状況に合わせ、安全面で必要と判断した場合にのみ施錠することがある。	マニュアルを作成し、判断に迷った時はいつでも見られるよう見やすい場所に配置している。また研修を開催し全職員の理解と実践に努めている。職員は身体拘束の具体的な行為を良く理解しており、必要性が発生した場合は、職員間で話し合い拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で学ぶ機会を設けている。また県や市からの関連情報は職員間で共有し、虐待の防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料提供を行い、学ぶ機会を持つようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、書面に基いて、利用者に不安や疑問が残らないよう丁寧に説明している。内容を十分に理解して頂いた上で契約、解約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会があった時や、電話連絡の際等に、利用者や家族からの意見、要望を聞き入れるようにしている。また、定期的に運営推進会議を開き、それらを運営に反映させている。	面会や、電話の際、また月1回近況を書いたお便りの返事に意見を聞くようにしている。昨年往復ハガキでのアンケートを実施した。運営推進会議には全ての家族に参加を呼び掛けている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のペースでユニット別の会議と、ユニットリーダー会議を開いている。全ての職員が会議に関わることで、職員の意見や提案を反映させやすい環境となっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は”人が会社の財産”と考えており、全ての職員に公平な評価をしている。将来のビジョンを明確に伝え、また、人の成長を考えた配置転換を行うなど、職員がやりがいをを持って仕事に取り組めるよう配慮している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者を通じまたは職員と日頃から接する中で、一人ひとりの力量を把握している。その上で、スキルの向上に繋がる研修を職員に紹介し、全体のレベルアップを図っている。	内部研修は、年間計画により実施している。職員は年1回自己評価を行っており、代表者は職員の力量を把握し、外部研修へ参加させている。参加した職員は内部研修で復命、報告し、職員との情報共有を図りスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、自らが役員を務めるグループホーム協会の会議に管理者や職員を積極的に参加させ、同業者との交流、ネットワーク作りを行っている。またその中で、他所の取り組み方、良い点を学ばせ、自事業所へ反映させることを狙いとしている。	県グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会山形県支部に加盟しており、代表者が役員を務めていることから、管理者や職員を積極的に会議や交換研修に参加させ、ネットワークを築き、交流を図りサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望を明確にし、それまでと変わらない生活が送れるよう、具体的なサービスの指針を示す事を心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する立場として、自施設について十分な説明を行い、その上で出てくる不安や疑問について傾聴し、解決に向けて取り組む中で、信頼関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの性質や特徴を説明し、理解して頂き、必要だと判断できる場合は他の選択肢も提示、提案している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「職員が行うこと」「利用者が行うこと」のように、区別しないことを心掛けている。誰でもあっても、暮らしの中で出来ることは手伝ったり、助け合いながら生活している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話した時などに、本人の様子を報告し、本人についての情報の共有を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、本人の要望に沿えるような支援を行っている。電話や手紙での友人との交流、馴染みの場所への散歩やドライブを楽しみながら、本人が大切にしてきたものを守っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の楽しみを取り入れ、利用者同士の関係が良好になるよう、常に気を配り働きかけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も年賀状や暑中見舞いのやり取りをしたり、必要に応じて電話連絡や面会を行っている。相談にも対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの声に耳を傾け、希望、意向の把握に努めている。また、毎日の気付きをスタッフ間で共有し、本人本位の支援ができるよう努めている。	これまでの生活歴や習慣を把握し、また日々の暮らしの中から、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合でもしぐさや表情から汲み取るようにし、毎日のミーティングで職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、以前の暮らしぶりについて情報を得て、それをサービスに反映させている。サービス利用の経過は記録に残し、スタッフが共有できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方に合わせた支援を行っている。家事も可能な限り利用者で行うことにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り本人、家族、関係者と話し合い、介護計画に反映させている。そうでない場合はスタッフで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは担当者が中心になり職員の意見を聞きながら3カ月毎に行っている。介護計画は本人や家族、職員の意見を聞きながら3カ月毎に見直し、現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を残し、毎日のミーティング時にスタッフ間で情報共有し、計画作成に活かしている。ただ、記録できていないこともあると思われ、改善に努めたい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から近隣のスーパーに買い物に出かけ、職員と一緒に商品を選んだり、馴染みの理髪店で散髪しながら交流を楽しんだりしている。また、近くの観光地へドライブに出かけ、楽しんでもらえるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所とかかりつけ医との連携をとりながら、本人や家族の希望を尊重し、通院の支援を行っている。受診後は結果を報告し情報を共有している。	本人や家族の希望を重視しかかりつけ医を決め、通院は家族が行けない場合は職員が支援している。受診結果は電話や毎月のお便りで報告し、情報の共有に努めている。	長期利用者の増加に伴い、医療費が増す傾向にあり、受診結果は詳細についての情報と方針の共有が必要なことから、書面による情報共有について工夫されることを期待したい	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、常に看護職員と連携を取っている。体調の変化があった場合等に、適切な対応が取れるよう確認している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には本人、家族、病院関係者と情報交換し、できるだけ早期に退院できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いで方針を決定する。医療機関と連携をとりながらチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から本人、家族と話し合い、重度化した段階で、その都度方針を確認し、情報を共有している。「重度化した場合の指針や看取り指針」の作成について検討中であり、終末期ケアや看取りについての学習に取り組み職員の理解を深めていく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の方法について学ぶ全体学習会を定期的に行っている。職員一人一人が対応できる実践力を養うための機会を作っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成している。また、定期的に消防署の方を招き防災訓練を行っている。災害時には地域の方と協力する体制は整っている。	火災通報装置により火災発生時は直接消防署に通報する設備を備えている。敷地内の同法人事業所と合同で年2回消防署参加の基に避難訓練を行っており、訓練時はチラシを近隣に配付しお知らせと参加を呼び掛けている。	地域との協力体制については、目標達成計画に掲げ取り組んでいるが、更に継続して、具体的な協力体制を築き、有事に備えられるよう期待したい。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない関わり方を心掛けている。	職員は利用者の立場に立って「されて嫌なこと」を研修に取り入れ人格の尊重やプライバシー確保の具体的な対応に取組み、不適切な対応に気付いた際は職員同士で注意し合える職場づくりに心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者本意の意思決定が出来る環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導のサービス提供にならないよう、一人一人の生活スタイルを優先した支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に伺いながら、着替え選びや整容の支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は、準備、片付けも含めて可能な限り利用者と一緒に出来るよう配慮している。職員、利用者は同じテーブルで一緒に食事をとっている。	朝、夕はユニットのキッチンで調理し、準備から、会食、後片付けまで職員と一緒に参加しているが年々参加できる利用者が限られてきている。外食や出前寿司、誕生会のリクエストメニューなど、多様な食べる楽しみの機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記録している。一人一 人の嗜好を把握し提供しながら水分、食事撰 取の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力 に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアの声掛け、介助を 行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 に向けた支援を行っている	排泄の介助が必要な人に対しては必ず排泄 パターンを確認し、その時間に沿ったトイレへ の声掛け、排泄介助を行っている。退院後に オムツ使用となった人に対しても、日中トイレ 誘導を行い、以前のようにトイレでの排泄が できるように支援している。	排泄パターンを確認し、適時の声掛けや誘導を 行っている。夜間おむつの必要な人について も、夜間のみベッドサイドにポータブルトイレを持参し、 できるだけおむつを減らし、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた取り組みをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食 物の工夫や運動への働きかけ等、個々に 応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、水分、食事量のチェッ クその他、日常生活の中にレクリエーションを取り 入れ、適度な運動量が確保できるよう努めて いる。また、看護師とも連携を取り、個々の排 便間隔に合わせて下剤の使用も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせ て入浴を楽しめるように、事業所の都合 だけで曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間を決めず、好きな時に入浴が出 来るよう支援している。	利用者からの希望を受け、午後3時からの入浴に 対応している。一般家庭用の個浴で浴室からは、 緑の木々を眺めることができ、歌を唄いながらゆ っくり楽しむ人もいる。週3回は入浴できるようにして いる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して気持ち よく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子を見て、気持ちよく休息し たり、安眠できるよう随時声掛けしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている	薬の説明書を個別にファイリングし、その薬 の目的や副作用について、ミーティング時に 職員間で確認している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際の、テーブルや皿拭き、洗濯物干し、整頓等、一人一人がそれぞれ自由に役割を担っており、職員はそれをサポートしている。また、絵、折り紙、歌等好きなことが出来るような環境を設定し、気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーへの買い物や散歩、ドライブ等、希望があればそれを優先して行っている。外食する場合や、家族と外出する場合でも事前に連絡・調整し、外出がスムーズに行えるよう支援している。	行事としての花見、紫陽花見学、紅葉狩の他、日常的な散歩、スーパーへの買い物、プランターの花の手入れ、水やりなど多様な外出の機会を確保している。家族の協力を得て、外出や外食にも対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの人は家族が管理している。何名かは財布を所持しており、その人の力や希望に応じて、お金を使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援は、本人から要望があれば、支障が無い限り速やかに行っている。レクリエーションで自分で作成した絵手紙を家族や友人に送ったりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にいけば台所からの食事作りの匂いがし、窓からは中庭の風景を楽しむことができ、生活感のある空間となっている。加湿器やエアコン、すだれ等時期に合わせて活用し、温度、湿度管理している。施設内は生花を飾るなどして季節感を感じることが出来るよう環境作りをしている。	共用スペースは天窓からの光で明るく、備え付けの掘炬燵仕様の畳スペースとソファ、椅子、テーブルのスペースがあり、中庭の風景を眺めながら思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。夏は日よけのすだれを掛け、季節感のある温湿度の管理が行われている。壁には利用者の作品をさりげなく展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では仲の良い者同士で談笑をしたり、一人でテレビや雑誌を見たりしている。和室で新聞を読んで過ごす人もいて、各自が思い思いに過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、その人にとって引き続きそれまでの暮らしの延長という形で生活できるよう配慮している。馴染みの家具や家族の写真など、好きなものを好きな所において居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	これまで馴染んできた調度品や寝具を持ちこみ、また思い出の写真や賞状などを飾ることで、自分の部屋を作れるよう配慮され、居心地良く過ごせるような工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全かつ快適に生活できるように随時改善、工夫している。	/		